孔子の伝統が生むコミュニティ企業

Confucian traditions create community enterprise

チャーリー カッテル（英国）
翻訳　坂林哲雄（協同総研）

韓国の社会的企業の開発に関わる主要な役割は、「自活支援センター（self-support incubation agencies）」と呼ばれているプロジェクトによって担われている。これらは、1970年代と80年代に、社会的に排除された人々に対して生活保障と支援が不足したことによって生まれたのが最初である。
もし、自発性を基礎に生み出されたなら、ひどく条件が不利な地域の中でも、その社会の底辺にいる人々のために、自主運営と地域に密着した企業を生むという彼らの目的は達成されただろう。

しかし、1995年まで、これらのセンターの大部分は経営能力の不足と資金不足のために崩れ、残った5つも苦闘を続けていた。その後、彼らは援助のために初めて国家に目を向け始め、しかもその話し合いは成功裏に進められた。1999年までに、20のセンターが新たにうまれ、私が訪れた昨年の12月には、韓国国内に70センターが存在していた。それらのうち11が、首都ソウルにあった。

彼らの仕事に新たな関心が向けられた主な理由は、1997年の韓国経済が歴史上初めて経験する大量失業という大崩壊の中から生まれた（the fall-out）ということである。

本来的に、この自活支援センターの役割は、コミュニティ企業を開発し支援することである。そして、コミュニティ企業の多くは、財政的な自立ができた段階で、労働者協同組合へ転換するという長期的な展望をもっている。

私は、ソウルのマッポ地区の特に荒廃したところを担当するセンターを訪問した。そこでは5,000人の人々が生存レベル以下で生活している（そのような恵まれない地域は、まるで月に達するかのような険しい斜面にいつも建てられるの

チャーリーカッテル
Charlie Cattell

カッテル氏はICOM（イギリス労働者協同組合連合会）で法律と組織問題を10年間担当し、その間91年から96年の5年間はUKCC（イギリス協同組合協議会）で英国統一協同組合法案の策定作業にも加わった。現在はフリーのコンサルタントして活動している。

で、”月村”と呼ばれている)。

生み出されたコミュニティ企業には、マーケティングと社会福祉という二つの核となる活動が結合している。例えば、食事を提供したりパンを焼いたりするビジネスがあり、それらは安い卸売り価格で提供されるだけではなく、困窮した人々には無料でも配られる。同じように、支払い能力のない人々に対して、無料で修理をおこなう建物サービスを行うコミュニティ企業もある。マッポのセンターは、これまでに約80人の雇用創出につながる7つの労働者協同組合(コミュニティ企業)を育成した。そしてまた、コミュニティのために一般の人が立ち寄り相談を受ける場所ともなっており、人々が仕事を探したり、レーニング受けたりするのを援助している。一日問合せ件数は約1000件である。

計画中の新しアイデアには、両岸を完全にコンクリートで覆われた巨大な川漢を、再びきれいな川にする緑に関係した仕事おこしもある。彼らは、この事業を通じて、技能の乏しい人々や複雑な状況下で不利益を被っている人々のために、良い機会を提供しようと思っている。また、ある計画中の木工加工のプロジェクトは、消え去ろうとする韓国の伝統を守りながら、若い失業者に仕事と訓練の機会を提供している。

自活支援センターの収入は99%が政府からのもの(委託された職業訓練の費用を含む)で、そのうちの30%が企業支援と投資に使われている。企業によって生み出された利益は、賃金、積立、地域のための無料サービスに使うコミュニティ・ファンドの3つに分けられる。

ソンボクという地区のもう一つのセンターで、私たちは廃棄された食物をリサイクルする魅力的なコミュニティ企業を訪問した。食べ物の浪費は、韓国の大きな社会問題である。誰にでも自分に分けられた料理をすすめる孔子の伝統が残る国だし、どんな一つの食事にもたくさんの料理があり、ほとんどに残り物がでる。それを燃せばダイオキシンが出るし、埋めれば有毒なガスを生成する。2005年までに全ての食物をリサイクルすることが法的に求められている。このコミュニティ企業は小さなレストランから廃食物を集め(処理費はレストランが支払う)、肥料や家畜の餌として加工し、地域の農家にそれを販売している。近々労働者協同組合に転換する予定である。

私が韓国を訪問した本当の目的は、社会的企業に関する会議で講演するためだった。会議ではそのセクターの役割について面白い論議があった。

「そのセクターは、不利な状況にある人々に仕事を生み出すだけなのか」
「そのセクターは、全ての人々に機会を提供し、より公平な社会に向けた道を示すようなすべてを含んだ運動として成長できるのか」

現時点で、前者の見方は主に実際上の理由によって動いているようだが、その地域の主要な活動家の多くは後者の見解に積極的に関わることを断言している。どちらの道も、たくさんの熱意と意義ある豊かなイマジネーションが必要なことは明らかだ。そして、意義のある重要な発展が今後展開されることを予想してもいいだろう。実際、その会議に続いて、韓国の政府が全国社会的企業開発センターに資金を供給することになっているという発表があった。